

骨代謝の評価と管理

- CKD-MBDに伴う骨病変を腎性骨異栄養症RODといい、皮質多孔性の増加や皮質骨の菲薄化など骨微細構造の変化が起こる

分類		特徴
線維性骨炎型	高骨代謝回転	<ul style="list-style-type: none">➤ 二次性副甲状腺機能亢進症に伴う➤ 破骨細胞の形成・活性亢進により過剰な骨吸収部位や骨髄の線維化など➤ 骨痛や脆弱性骨折の原因となる
無形性骨症型	低骨代謝回転	<ul style="list-style-type: none">➤ カルシウム含有リン吸着薬、活性型ビタミンD製剤、カルシウム感知受容体作動薬、ビスホスホネート製剤などがリスク因子となる➤ 無形性骨症も脆弱性骨折のリスクとなる
骨軟化症型	骨石灰化障害	<ul style="list-style-type: none">➤ アルミニウム製剤の使用に伴うもので近年は少ない

- これらの病型は厳密には骨生検が必要であるため、PTH濃度や骨代謝マーカーにより骨代謝回転を推定する